

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

治燥剂 滋陰潤燥剂 3

ばくもんどうとう  
麦門冬湯

滋養肺胃・降逆下気

麦門冬 15g・半夏 4.5g・人参 9g・甘草 3g・粳米 15g・大棗 3g  
水煎し服用する。

金匱要略

<主治>

肺痿（肺陰不足）、胃陰不足

咳嗽、激しい咳き込み、痰が切れにくい、咽の乾燥刺激感、口乾、舌質が紅で乾燥、舌苔が少、脈が細などを呈す。

胃陰不足

口渇、咽の乾燥、嘔吐、舌質が紅、少苔、脈が細などを呈す。

<病機>

肺胃陰虚で気機が上逆した状態である。

胃陰が不足して津液が上昇しないので口渇、口乾がみられ、胃気が和降できず上逆すると嘔吐を伴う。胃陰虚で虚火が肺陰を傷灼すると、肺陰も不足して肺気が上逆するので、咳き込んで咳嗽が続き、痰が切れにくく粘稠である。肺胃陰虚で咽が濡潤されず、虚火が上炎して咽が灼されるために、咽に刺激感があり乾燥する。舌質が紅で乾燥、少苔、脈が細は、陰虚をあらわす。

<方意>

肺胃を滋潤して、上逆した気機を下降させる。

主薬は甘寒の麦門冬で、大量に用いて肺胃を滋潤し虚火を清する。益気生津の人参と補脾益胃の粳米・大棗・甘草は、中気を健運することにより津液を肺に上輸する。辛温、燥湿の半夏を一味加えるのは、大量の麦門冬に配合することにより半夏の燥性が消失すると同時に、麦門冬の粘膩の性質を除くことができ、更に半夏の降逆下気の効能によって止咳、止嘔できるからである。薬味は6種にすぎないが、滋潤と降気がうまく配合され、陰津を回復し虚火を除き、下気降逆することができる。

<参考>

本方（麦門冬湯）は虚熱（肺陰虚）の肺痿に対する方剂と考えられている。

加減法

津虚が顕著であれば、沙参・玉竹を加える。

潮熱があるときは、銀柴胡・地骨皮を加える。

日本での保険適応効能、効果

痰の切れにくい咳、気管支炎、気管支ぜんそく